

International Science Youth Forum 参加

- ◇期 日：令和6年1月8日(日)～12日(金)
- ◇場 所：Hwa Chong Institution (シンガポール)
- ◇参加者：SS化学部員 2名
- ◇引率者：SS化学部顧問 浮田先生



私たちSS化学部は、第18回高校生化学グランドコンテストの口頭発表で第3位に相当するグランドアワード賞化学技術賞をいただいたので、代表の2名がシンガポールで行われるInternational Science Youth Forum (以下、ISYF)に参加する機会を得ました。5日間にわたるプロジェクトには、世界各地から私たちと同じ年代の人たちが集まり、「人類のための科学技術：持続可能な未来の構築」をテーマに交流しました。

1日目には、グループに分かれてゲームをして交流しました。私たち2人はそれぞれ別のチームに所属しました。その後、グループリーダーに案内してもらって、現地を観光しました。有名なマリーナベイサンズやマーライオンだけでなく、シンガポールの歴史を学べるような場所にも行きました。シンガポールは小さい国ですが、その土地を使ってどのように発展してきたのかということ学ぶことができました。

2日目には、シンガポール国立大学に行って講義を受けたり、科学について楽しく学べるサイエンスセンターという施設に行ったりしました。そこではシンガポールの教育水準の高さが垣間見えました。夜には参加者による文化紹介があり、私たちも日本について発表し、日本の電車について語ったり、日本の歌を歌ったりしました。どの国の紹介にも個性があつてとても盛り上がりました。

3日目には小グループに分かれて、様々な分野の専門家の方々の講義を受けました。私は地熱発電についての講義を受講しました。専門用語が多く聞き取りづらさもありましたが、周りに助けをもらいながら、詳しく知ることができました。午後はバードパラダイスという、様々な地域にすむ鳥が集まった広い施設に行きました。この施設には柵がないので近距離で鳥たちを観察できました。参加者はみな、ペンギンにくぎ付けでした。

4日目は前日と同じく講義を受けた後、チームの仲を深めるために外に出かけました。最終日の5日目はお別れパーティーのため、ホテルで昼食をとりました。

シンガポールの主な公用語は英語なので、コミュニケーションがとりづらい場面がありましたが、どの人も親切で、5日間でかけがえのない思い出を作ることができました。このプロジェクトへの参加にあたり、ISYFの方々、芝浦工業大学をはじめ多方面の先生方にたくさん援助していただきました。この場を借りて感謝いたします。